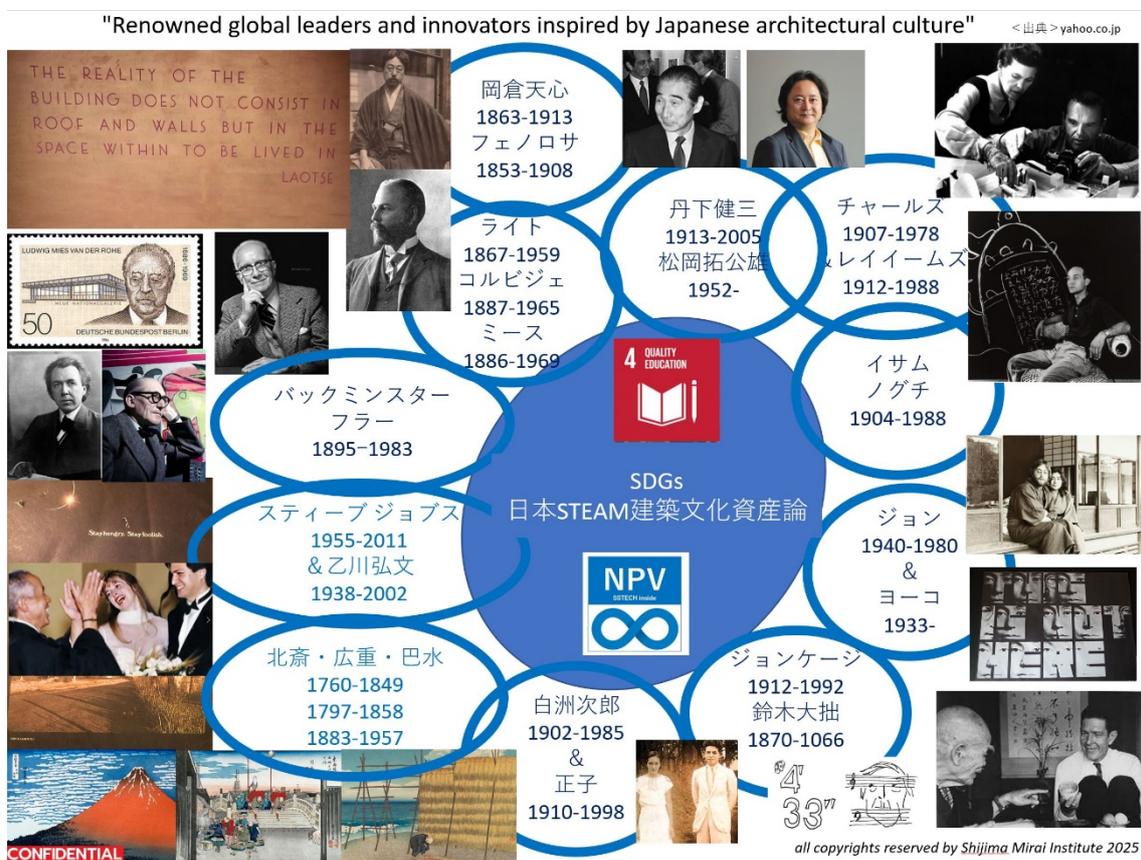


本イニシアチブの出資者とは、「用意されたプランに Yes/No を言う存在」ではなく、「PEI の具体的内容を共に設計し、事業に参加する共創パートナー」です。

PEI の住宅コンテンツは、私が 2006 年以降、大学他教育機関で調査・研究・社会実装してきた日本 STEAM 建築文化資産です。（下図参照）



2. アメリカの「文明」 × 日本・アジアの「文化」によるしくみづくり

本イニシアチブでは、アメリカの「文明」（先端技術・イノベーション）、**日本・アジアの「文化」（住文化・コミュニティ・ものづくり精神）**という、それぞれの強みを最大限に活かした役割分担を進めます。

アメリカ：

シリコンバレー発スタートアップ約 300 社への出資を通じて、医・食・住領域の先端技術（ICT、生成 AI、BIM、CPM、edutech、Health Promotion Design 等）を生み出す「文明の源泉」を提供します。

日本：

東京を起点とする新幹線網上に所在し、従来の知識詰め込み教育ではなく、知識を知恵にアップデートする「探究学習」を必修とする大学・研究機関を核に、シリコンバレーの卵を世界標準レベルまで育成します。

住宅コンテンツ第一弾である「九の間ハウス inspired by Steve Jobs」を量産化し、東京の住宅問題を根本解決するしくみをつくり、アジアへの輸出基盤とします。九の間ハウスは、**フランク・ロイド・ライト**や**スティーブ・ジョブズ**が認めた「**無駄のないモジュール設計**」に、**イーロン・マスク**の IoT コンパクト住宅の

最先端技術とデザインを融合させ、日本の住文化が育んできた「すまいとくらし」を、世界標準住宅として再定義したものです。

アジア：

爆発的成長市場としての生産・施工・量産を担い、日本が育んだ技術・設計を地域の文化に適応させていきます。

3. 住宅産業を DX 産業へ：日本住宅市場からアジア建設市場へ

第一弾ターゲットは、年間約 80 万戸・約 20 兆円規模の日本住宅市場です。労働集約的な住宅産業を、真の意味での DX 産業へ転換させます。

単なるコスト削減ではなく、新たな価値を見出すことを目的とした DX 本来の意義を、我々が開発した「消費者起点 narrative marketing DX」（生活者のストーリーを起点に設計する DX）により実現します。

次いでアジア諸国での施工・量産を通じて、600 兆円規模のアジア建設市場へ展開します。日本技術者が現地指導を継続し、永続的なビジネス基盤を構築します。

これを実現する中核として、日本のハウスメーカー等を買収し、アメリカの技

術とアジアの需要をつなぐ FAB（製造・知財プラットフォーム）と位置づけ、

前例のない DX「知財ライセンス」モデルをアジア各国で展開します。

3 home 丸の間ハウス inspired by Steve Jobs



丸の間ハウス designed by BIM



第2期 実証講座の実施内容

<p>実証講座① 実証日 4 日目の 実施内容</p> <p>日 時 2023 年 10 月 27 日(金) 13:20~16:20</p> <p>場 所 都立工科専門学校の「デジタルスタジアム」</p> <p>受講者 一般建築士専攻科 2 年 3 名</p> <p>指 導 講師 四十万球 松岡拓公雄 井谷真実・春井朝夏 (丸建7-507)</p> <p>助産 徳島健治 伊谷麻耶</p> <p>司会 内川わか奈</p> <p>教員 社長・仁多見浩 学社長・野口信彦 徳島和子</p> <p>講座内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オープンセッション(四十万球) (13:20~14:00) 2. 実証講座説明 3. 講座生説明会 (14:00~15:25) 4. 講師自己紹介 5. 質疑応答(自由) 6. 休憩 7. 講義 2 井谷真実・春井朝夏 (15:30~16:10) 8. 講師自己紹介 9. 質疑応答(自由) 10. 次出席希望者の課題説明 11. 講義 徳島健治・アンケート <p>実施手法 講義、実演</p> <p>出席人数 14 名 (後援のみ)</p>	<p>実証講座② 実証日 5 日目の 実施内容</p> <p>日 時 2023 年 11 月 27 日(月) 13:20~16:20</p> <p>場 所 都立工科専門学校の「デジタルスタジアム」</p> <p>受講者 一般建築士専攻科 2 年 4 名(欠席した1名はスキスキのみ参加)</p> <p>指 導 講師 松岡拓公雄</p> <p>助産 四十万球 藤嶋秋司</p> <p>司会 内川わか奈</p> <p>教員 社長・仁多見浩 学社長・野口信彦 徳島和子</p> <p>講座内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講師自己紹介 2. 質疑応答(自由) 3. グループワーク(15:20~16:10) 4. 質疑応答(自由) 5. アンケート <p>実施手法 講義、実演</p> <p>出席人数 11 名(後援・オンライン含む)</p>
--	---



経済界・昭和58年9月14日 OUB CENTER



松岡拓公雄 TAKEO MATSUOKA 【建築設計・教育全般】

建築家 滋賀県立大学名誉教授 建築学校松岡拓公雄 4 年 2 組主任

1952 年うまれ 1978 年東京芸術大学美術学部建築学科大学院卒業、丹下健三都市建築設計研究所、ヨルダン・ヤルムーク大学、ナポリ新都市計画、ナイジェリア新首都計画、OUB 銀行本社ビルなど海外での業績多数。1986 年主任建築家として東京都新都市計画コンペ担当、一等賞選後同研究所遷移。1986 年アーキテクトファブ設立・共同主宰代表建築家、日本建築学会賞業績賞、グッドデザイン大賞、建築業協会賞等多数

●「重メッセージ」日本の歴史風土で熟成した「家」の知恵は子供を家族を世界を幸せにできる力があります。

CONFIDENTIAL
all copyrights reserved by Yasushi Shijima 2025

4. C2B 発想と DAO：和のチームプレーを可視化するしくみ

本イニシアチブの成功のカギは、B2C（生産者が上流、消費者が下流）ではなく、C2B（消費者起点）という発想です。

まず消費者・生活者にとってのゴールを可視化し、CPM で逆算することにより、最適な工程・資金計画を設計します。

DAO は、「日本人得意としてきたチームプレー・和の精神」を可視化するための器と位置づけます。

一人ひとりの参加者の貢献（知恵・時間・資本）を言語化し、スコアとして数値化することで、「貢献が見えるネットワーク」を構築し、参加者全員が互いを尊重しながら責任を分かち合うしくみをつくります。

5. 共創パートナーに期待する役割

本イニシアチブが求める対等な「共創パートナー」とは、次のような方々です。

- 令和の日本・アジアの構造転換に、長期視点でコミットしたい方
- PEI の思想と方向性に賛同し、「具体的なスキームや事業設計と一緒に考える」ことを楽しめる方
- DAO 的なガバナンスや C2B 発想に共感し、自らもネットワークの一員として責任を引き受ける覚悟を持つ方

そうした共創パートナー一人ひとりが、本イニシアチブの中で「自分の言葉で語る現在・過去・未来」と、「自ら設計に関わったという存在感」を持つところが、PEI の最大の価値であり、強固な持続性の源泉になると考えています。

